



開会（山本義人先生）

今年も盛大に帰国報告会が行われることをとても嬉しく思っています。今回は10名の帰国者をお迎えでき、とてもうれしいです。全国的には現役の先生方の派遣が減ってきて、シニアの方や学生の方の派遣も増えてきています。今日は帰国者のみなさんが報告をさせていただきます。時間的には短くなってしまいますが、今後、勤務校や保護者の方にも広めていただけたらと思います。



安東奈美先生（サンパウロ日本人学校）

ブラジルと言えば、アマゾン、サッカーの応援に白熱する人、リオのカーニバルなど、熱い国だというイメージがあると思いますが、実際に行ってみると多くの発見ができました。日本の裏側にある国で日本の22.5倍の面積、しかも赤道直下の場所もあるなど、自然豊かな国です。テレビ番組でも取り上げられるような場所もたくさんあります。私が駐在していた時期は、経済状態が良くなく、国が大きく動いた時期でした。デング熱や黄熱病などが流行していた時期もありました。滞在中にはリオオリンピック

があり、サッカーで金メダルを獲得したことがとても盛り上がりました。リオオリンピックでの金メダル第一号は柔道の選手でした。ちなみにブラジルの柔道競技人口は日本の10倍で約200万人です。また、サンパウロは水泳の強化合宿の場所だったので、子どもたちとの交流も行いました。

サンパウロは南米最大の都市で、高層ビルが立ち並んでいます。リオからは飛行機で1時間程度です。標高は700メートル以上の場所にあり、とても涼しいです。夜も羽毛布団で寝ることがありました。街では、夏の時期でも真冬の格好の人もいれば、夏の格好の人もいました。日系人が多く、桜の木があつたり、神社や寺もあつたりします。餅つき大会や盆踊り、各都道府県の県人会が主催する祭りもありました。日系人が多いということで、食材には困りませんでした。大根やねぎ、しめじ、柿などもありました。

日本人学校はとても広大で、世界で2番目に広い敷地でした。校舎が坂道の中に点在していて移動が大変でした。街の中では子どもたちだけでは外に遊びにいけないので、学校では元気いっぱい遊んでいました。一日の流れは日本とほとんど変わらなく、週一回の英語やブラジルのことを学ぶ総合学習「ブラジル」を行っていました。お昼ご飯はお弁当で、掃除も行っていました。運動会は赤色と白色ではなく、緑色と黄色に分かれて行いました。文化祭は小中合同で行いました。現地校との交流も年間複数回行いました。日本語学校も多くあり、その学校との交流も行いました。

特色を生かして、学校の敷地内でコーヒーの実を摘んで焙煎する活動を行いました。二日しか咲かないコーヒーの花も見ることができました。バナナの木もあるのでバナナの実もとりました。現地の人が染め物に使う木を材料としてボディペインティングもしました。季節が逆なので日本と同じ時期に同じものを栽培できずに苦労しましたが、朝顔の時期に大根を育てたりするなどの工夫をしました。

主体的で深い学びをするために、図工でお互いのいいところを取り入れられるような工夫をしました。鑑賞の時間には、等身大の写真を活用しながら活動することもありました。

校内では、小学部と中学部とのつながりを意識しました。3年目には小学部の主任となり、児童会の児童を中心に話し合い、意見箱を活用しながら取り組みました。中学部の生徒会のメンバーとも協力しながら取り組みました。中学部の生徒がいることであこがれを抱く子もいました。

サンパウロ日本人学校は、昨年度が50周年記念でした。50年を振り返る活動と、これからの50年を考える活動を行いました。運動会でも運動場に檣を組み、盆踊りを行いました。コーヒーの木の植樹も行いました。そんなサンパウロ日本人学校も、治安上の問題などが原因で移転する可能性も出てきています。

3年間、夢のような生活を送ることができました。ブラジルに住むことで、柔軟な対応力が身につきました。校外学習などで約束や打ち合わせ通りに進まないことがありました。そんな中でどうやってよりよい教育をして

いくつか考えることをしていききました。これは今後の活動にもいきっていくと思うので、こちらで還元していきたいです。



井上良平先生（シンガポール日本人学校）

3年間派遣させていただきました。シンガポールという国について、日本人学校について、生活について、派遣を通しての流れで発表したいと思います。

まず、シンガポールという国についてですが、マレー半島の南端にあり、東京23区と同じ大きさ、人口は約560万人で、そのうち日本人は3万人住んでいます。どこを歩いていても日本人に出会います。人口密度は世界第二位でした。民族ですが、中華系、マレー系、インド系でした。公用語は、

英語、中国語、マレー語、タミル語でした。厳しいルールがある国で、禁止区域でタバコを吸ったり電車の中でお菓子を食べたりすると罰金もとられます。ノードリアンというルールもありました。とてもきれいな街だったので、その裏には厳しいルールがあったのだと思います。アジアの貿易の拠点でたくさんの日本人が住んでいました。たくさんの企業を誘致するために、緑がたくさんあったり、花を使った物がたくさんあったりしました。多民族国家で多くの国の人たちで生活をしていました。チラシなども多言語で書かれていました。中華系の街であったり、そこから少し移動するとマレー系の街があったりしました。食も色々な物があり、色々な国の食べ物を食べる事ができて楽しかったです。地元の人々の行列ができているお店にはとりあえず並んでみました。値段も安くおいしかったです。ドリアンにもはまってしまい、最初は臭かったですが、年に二回あるシーズンには同僚の人と食べに行きました。スーパーにも生け簀に色々な生き物があり、カエルも売られていました。

狭い国だからこその工夫があり、高層ビルが多かったです。また、住む民族の割合が決まっているなど、色々な工夫がありました。

次に日本人学校についてですが、シンガポールには3つの日本人学校があります。3校合わせて2200名以上の児童生徒がいます。2016年には創立50周年を迎えました。職員室はパーテーションで区切られており、とても働きやすかったです。1年目には6年生担任で体力づくり担当、2年目は2年生で生徒指導、3年目は4年生で生徒指導主任を担当しました。クレメンティ校はメンテナンス担当、掃除担当など、多くの職員がいました。確かな学力が求められている日本人学校なので、通わせたい日本人学校作りを行いました。研究授業も積極的に行いました。また、自分の得意分野を紹介するという取り組みを行いました。その中では、授業につながることで、国際理解に関することなどがあり、とても勉強になりました。

特色のある教育ですが、2年生は、町探検として近くのマーケットで買い物をしました。3年生は、シンガポール一周を行いました。また、キャリア教育の一環として、現地で働いている方に来ていただきました。4年生は、民族について学び、自分の調べたい民族について学び、実際の街に出向いてさらに詳しく調べました。5年生は、近くにある大学の学生と英語で交流をしました。日本のことを紹介しました。6年生は、修学旅行でバリ島に行き、交流をしました。言葉が通じなくてもボディラングージで交流を行いました。また、5年生と同じく、大学生との交流を行いました。将来をしっかりと考えている学生の話聞くことで、とても刺激を受けたようでした。

英語教育にも力を入れていて、週に3回授業があります。授業の中では、ディベートがあったり、読んだ本を紹介したりするなどクラス別に授業を行っていました。色々な文化のイベントの時には、衣装を着て文化を学ぶことをしました。また、英語だけで音楽や水泳の授業を行うこともありました。ICT教育にも力を入れていて、iPadや書画カメラもクラスに一台ありました。また、日本とも交流をすることもありました。タブレットも一

人一台用意されていて、ホリデースクールで使い方を伝えるなどの工夫をしていました。

出会いと別れが多く、年間200名くらいの出入りがありました。その都度お別れ会を行い、みんなで思い出作りをしました。

日本人会主催のスポーツ大会も行われおり、バレーボールでは何度も優勝することができました。

住居はコンドミニアム型で24時間警備員がいました。また、蚊が多く定期的に薬を散布していました。子どもにも優しく、周りの方がとても関わってくださいました。

派遣を通してですが、卒業された方が学校を尋ねてこられることがありました。派遣の中で、多様な価値観を知ることができ、こうでなければならぬという凝り固まった価値観が変わりました。そんな中で志が高い全国の先生方と一緒に働くことができとてもよかったです。



船曳文洋先生（コロンバス補習校）

オハイオ州のコロンバス補習校に派遣されていました。現地校の小学校と中学校の校舎を借用していました。その中で幼稚部から高等部までが学習しています。現在、全世界で小中学生が58000人の日本人が学んでいます。そのうちアメリカでは18000人、コロンバスで580人が学んでいます。アメリカは日本人学校がほとんどありません。そのため、ほとんどの子どもが月曜日から金曜日は現地校で学び、土曜日に補習校にやってきます。コロンバス補習校は文科省からの派遣は2名です。子どもが100名までは1人、300名増えるごとに2名の派遣となります。派遣教員と言っても授業を行うのではなく、マネジメント部分を担います。授業は3年間で一度のみ行いました。高等部の社会科の授業を行いました。基本的には先生方の授業のサポートをします。現地の先生は、ほとんどの方がフルタイムで仕事をしています。先生方で教職の経験がある

方は一人のみです。その方達の授業のサポートをしていました。

一日のスタートですが、子どもたちはスクールバスで登校します。多くの子どもが来るので、自家用車では混雑が予想されるため、スクールバスで登校することになっています。高等部の子どもは約30名います。多くの子がアメリカの大学への進学を希望しています。月曜日から金曜日は現地校に通っています。とても多くの課題をこなし、さらに土曜日には日本の学習をしていて本当に感心します。

小学部は、国語4時間、算数2時間の授業を行います。中学部は国語2時間、数学2時間、社会2時間の授業を行います。その他の教科は現地校で学びます。コロンバス補習校の学校行事はとても充実していて、修学旅行、運動会、学習発表会などがありました。中学部の修学旅行のお弁当は日本のお弁当です、一つ18ドル（約2000円）です。とても高いですが、子どもたちはこれを楽しみにしています。小学部は一泊で行いました。博物館などに行きました。

運動会は全面芝生のグラウンドで行われます。幼稚部から高等部までみんな一緒に行きます。理事会や保護者の方の協力をもとに行われます。

授業の中では、日本文化をしっかりと学びます。七夕の時には浴衣を着て過ごしたり、餅つきをしたりしました。書き初め会も行いました。その時には借り物の校舎なので、汚さないように細心の注意を払いました。

アメリカという国柄、銃に対する避難訓練も昨年から行われています。敷地内に銃を持った人が入った時にどう動くか、校舎内に入った時にはどうするのかをみんなで学びました。「run,hide,fight」という合い言葉がありました。いかに被害を少なくするかを考えながら行動するということを学びました。なかなか日本では考えられないことですが、必要なことです。

卒業式は3年間で3度会場が変わりました。借り物校舎なので、仕方ないです。子どもたちにとっては卒業式本番の日に初めて入る場所です。事前に写真をもとに説明し、ぶっつけ本番で行います。でも、子どもたちはとても素晴らしい態度で臨むことができました。とても頼もしい子ども達でした。

日常生活についても紹介します。アメリカはアメフトが大人気です。曜日ごとに大学やプロの試合があり、見に行くことができました。果物が豊富でとても楽しめた3年間でした。また、スーパーでは蒜山納豆や梶谷のシガーフライを見ることができ、とても嬉しかったです。列車の旅にもチャレンジしましたが、一日走ってもト

ウモロコシ畑の時もあり、とても広さを感じました。

田中 基羊先生（シンガポール日本人学校ウエストコースト校：教諭）



シンガポールはチャンギ校、クレメンティ校、ウエストコースト校の3校ありまして、全ての学校に岡山派遣の先生がいました。

シンガポールは日本人会立の学校です。私は中学部の先生をしており、単独の中学校としては2番目に大きいそうです。

中学部で1年目は1年生の学級担任をしました。2年目は学年主任，3年目は教務主任をしました。学ぶ1年目，支える2年目，しなびる3年目と先輩の先生たちに言われていました。それを実践できるように頑張ってきました。

1年目は担任をしました，日本の学校とほぼ変わりません。同日に小学校も中学校も入学式をするので，中学校の入学式は午後からでした。朝中学校にきて，お弁当を食べるまで入学式する前にしていました。少し変わっていますよね。

中学校は単独で運動会，合唱コンクールなども会場を借りてできました。自然教室もマレーシアまで行って行うことができました。

楽しくできていましたが，中学校は進路が絡むので，受験には敏感で，1年生から英検3級なんて当たり前，たくさんの時間勉強している生徒がいました。1年生の終わる頃には，クラスの半分が日本に帰国するという寂しい現状がありました。

シンガポールも登下校はバスですが，治安がよくて，学校の門の外でバスに乗ります。学校の中にバスが入ることはありません。自力下校もあるので，今日はバスに乗らないなんてこともありました。

2年目は学年主任として学年全体を見る立場になりました。外国人スタッフもたくさんいて，かなり苦勞しました。学年主任の経験も無かったので大変でしたが，安全に全体を見て全体を流していくことを頑張りました。170人くらいでタイに修学旅行に行くのですが，渉外や安全面の考慮など大変でした。警察が私たちの修学旅行のためにパトカーで先導してくれたり，緊急車両を2台用意してくれたりしました。その結果，いろいろな体験を行うことができました。ナイトマーケットで自由行動をしたりすることができました。2年生では，職場体験も行いました。38の企業にばらばらに行くので，なかなか大変でした。

3年目は教務主任をしました。1050時間の授業時間を設定し，授業確保のために頑張りました。本校は音楽・美術・体育・家庭科で外国人スタッフがT1になり，イマージョン教育を行っていました。また，私が教務主任の時にグローバルコースを新設し，数学と理科を英語で行い，週に1時間だけ日本語の授業を行うことになりました。賛否両論ありましたが，なんとか頑張ることができました。シンガポールには日本人は3万人以上の日本人がいるのですが，日本人学校の人数はだんだん減っています。その中で特色作りとして取り組んだところがあります。

日本人会の出版物にも執筆しました。ホーカーという小さなお店を紹介する記事を書かせていただきました。こんな活動をする中で，いろいろな人とつながることができました。家族に支えてもらって，いろいろ勉強させてもらったことをこれから子どもたちに伝えていきたいと思えます。

< 帰国報告会 >

○第二会場帰国者報告

三好 隆志先生（シンガポール日本人学校チャンギ校：シニア）

百聞は一見にしかずで、文書でなく画像で発表します。シンガポールは有名な国なので、訪れたことのある人も多いと思います。

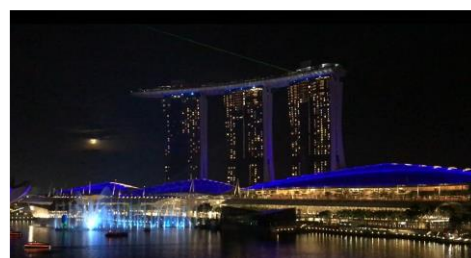
（以下は紹介された画像です。）



< マーライオン >



< ベイサンズ >



< マリーナレイザーショー >



<< サザンリジズ >



< ベイサンズプール >



< H D B >



< オオトカゲ >



< ドリアンサル >



< マリンリッチ >



< ホーカーのロボット >



< 桜祭り >



< 獅子舞 >



< トランポリンの授業 >



< 民族衣装デー >



< 音楽発表会 >

岡村 富広先生（ニュージャージー日本人学校：校長）



ニュージャージーはハドソン川より西で、東はニューヨークです。トライステートといわれ、7～8万人の日本人が住んでいます。自由の女神はニューヨークを象徴しているものですが、実はニュージャージー州にあります。

ニュージャージー日本人学校は小さい学校で、小学部と中学部があり、中にはクラスで子どもが1人というところもありました。北米欧州日本人学校校長会というのがあります。

その中で北米には3つの日本人学校があります。ヨーロッパでもテロがたくさん起こりましたが、ニューヨークに近いということで、私が勤めた3年間にニュージャージーでも小さなものですが、テロが起こりました。2年目、3年目は外務省に予算をつけていただき、危機管理の専門家が学校に訪れて、施設面の状況とシステムを見に来ました。

学校は小さな校舎で、教会の一部を借りていました。かなり所得の高い地域で、治安が良いところでした。市長さんはとても親日家で、入学式、運動会には必ずきてあいさつをしてくれました。地元社会との関係は非常に良好でした。

危機管理の面ですが、学校には入り口だけで、なんの門扉も囲いもありませんでした。私にとっては、危機管理意識を低下させずに、徹底させることが大きな課題でした。休み時間、トランシーバーと携帯をもって指定場所に立ってもらったり、警察に連絡できるように通話カードをIDの裏に入れてすぐ連絡できるようにしました。

アメリカは交番がない代わりにパトカーをいろんなところに停めてパトロールや見張りをしています。避難訓練のときには、警察や総領事館の方が来てくれました。ロックダウンで不審者対応訓練も行いました。警察には、不審者はどんな格好をしていたかを覚えておいてほしいと言われました。

次の年は、想定を変えて訓練を行いました。先ほど話した危機管理の専門家から、ロックダウンはどうやっているのかという質問があり、画像を見せて説明をしました。その中で、先生方に銃を持たせたらという話がありましたが、それはできないと断りました。そこで、アメリカの人はそんなに銃を持っているのかと聞いたところ、あくまでも家の中に不審者が入り込んできた時のためにもっているのものであって、許可のない者が所持をしているわけではないそうです。

危機管理マニュアルには、まずは落ち着けと書いてあります。ドアをロックしたら、どんなことがあっても開けてはいけないと書いてあるし、警察にもそうするように言われました。そして、校内放送か携帯で連絡が入るまでは、開けずにじっとしておくように言われました。不審者に姿を見られたり、捕まえにきて逃げ切れない場合、生徒のところに行かないように反撃をします。その時、物を投げるなどして、いたずらに命を失わないようにと言われました。

先生方の危機管理意識を落とさないために、職員研修をしました。想定も毎回変えました。外務省や領事館と先生方が情報を共有するようにしました。

最後になりましたが、オークランド市、市警、地域が理解をしてくれているのが心強かったです。何度も話し合っ、先生方と訓練を行えたことが良かったと思います。毎年先生が

かわるので、大切なのは高い危機管理意識を引き継いでいくこと、配偶者にも分かってもらわないといけないと思いました。気の緩みと慣れが一番危険です。

岡村 富広先生（ニュージャージー日本人学校：校長）



ニュージャージーはハドソン川より西で、東はニューヨークです。トライステートといわれ、7～8万人の日本人が住んでいます。自由の女神はニューヨークを象徴しているものですが、実はニュージャージー州にあります。

ニュージャージー日本人学校は小さい学校で、小学部と中学部があり、中にはクラスで子どもが1人というところもありました。北米欧州日本人学校校長会というのがあります。

その中で北米には3つの日本人学校があります。ヨーロッパでもテロがたくさん起こりましたが、ニューヨークに近いということで、私が勤めた3年間にニュージャージーでも小さなものですが、テロが起こりました。2年目、3年目は外務省に予算をつけていただき、危機管理の専門家が学校を訪れて、施設面の状況とシステムを見に来ました。

学校は小さな校舎で、教会の一部を借りていました。かなり所得の高い地域で、治安が良いところでした。市長さんはとても親日家で、入学式、運動会には必ずきてあいさつをしてくれました。地元社会との関係は非常に良好でした。

危機管理の面ですが、学校には入り口だけで、なんの門扉も囲いもありませんでした。私にとっては、危機管理意識を低下させずに、徹底させることが大きな課題でした。休み時間、トランシーバーと携帯をもって指定場所に立ってもらったり、警察に連絡できるように通話カードをIDの裏に入れてすぐ連絡できるようにしました。

アメリカは交番がない代わりにパトカーをいろんなところに停めてパトロールや見張りをしています。避難訓練のときには、警察や総領事館の方が来てくれました。ロックダウンで不審者対応訓練も行いました。警察には、不審者はどんな格好をしていたかを覚えておいてほしいと言われました。

次の年は、想定を変えて訓練を行いました。先ほど話した危機管理の専門家から、ロックダウンはどうやっているのかという質問があり、画像を見せて説明をしました。その中で、先生方に銃を持たせたらという話がありましたが、それはできないと断りました。そこで、アメリカの人はそんなに銃を持っているのかと聞いたところ、あくまでも家の中に不審者が入り込んできた時のためにもっているのものであって、許可のない者が所持をしているわけではないそうです。

危機管理マニュアルには、まずは落ち着けと書いてあります。ドアをロックしたら、どんなことがあっても開けてはいけないと書いてあるし、警察にもそうするように言われました。そして、校内放送か携帯で連絡が入るまでは、開けずにじっとしておくように言われました。不審者に姿を見られたり、捕まえにきて逃げ切れない場合、生徒のところに行かないように反撃をします。その時、物を投げるなどして、いたずらに命を失わないようにと言われました。

先生方の危機管理意識を落とさないために、職員研修をしました。想定も毎回変えました。外務省や領事館と先生方が情報を共有するようにしました。

最後になりましたが、オークランド市、市警、地域が理解をしてくれているのが心強かったです。何度も話し合っ、先生方と訓練を行えたことが良かったと思います。毎年先生が

かわるので、大切なのは高い危機管理意識を引き継いでいくこと、配偶者にも分かってもらわないといけないと思いました。気の緩みと慣れが一番危険です。

田中 基羊先生（シンガポール日本人学校ウエストコースト校：教諭）



シンガポールはチャンギ校，クレメンティ校，ウエストコースト校の3校ありまして，全ての学校に岡山派遣の先生がいました。

シンガポールは日本人会立の学校です。私は中学部の先生をしており，単独の中学校としては2番目に大きいそうです。

中学部で1年目は1年生の学級担任をしました。2年目は学年主任，3年目は教務主任をしました。学ぶ1年目，支える2年目，しなびる3年目と先輩の先生たちに言われていました。それを実践できるように頑張ってきました。

1年目は担任をしました，日本の学校とほぼ変わりません。同日に小学校も中学校も入学式をするので，中学校の入学式は午後からでした。朝中学校にきて，お弁当を食べるまで入学式する前にしていました。少し変わっていますよね。

中学校は単独で運動会，合唱コンクールなども会場を借りてできました。自然教室もマレーシアまで行って行うことができました。

楽しくできていましたが，中学校は進路が絡むので，受験には敏感で，1年生から英検3級なんて当たり前，たくさんの時間勉強している生徒がいました。1年生の終わる頃には，クラスの半分が日本に帰国するという寂しい現状がありました。

シンガポールも登下校はバスですが，治安がよくて，学校の門の外でバスに乗ります。学校の中にバスが入ることはありません。自力下校もあるので，今日はバスに乗らないなんてこともありました。

2年目は学年主任として学年全体を見る立場になりました。外国人スタッフもたくさんいて，かなり苦勞しました。学年主任の経験も無かったので大変でしたが，安全に全体を見て全体を流していくことを頑張りました。170人くらいでタイに修学旅行に行くのですが，渉外や安全面の考慮など大変でした。警察が私たちの修学旅行のためにパトカーで先導してくれたり，緊急車両を2台用意してくれたりしました。その結果，いろいろな体験を行うことができました。ナイトマーケットで自由行動をしたりすることができました。2年生では，職場体験も行いました。38の企業にばらばらに行くので，なかなか大変でした。

3年目は教務主任をしました。1050時間の授業時間を設定し，授業確保のために頑張りました。本校は音楽・美術・体育・家庭科で外国人スタッフがT1になり，イマージョン教育を行っていました。また，私が教務主任の時にグローバルコースを新設し，数学と理科を英語で行い，週に1時間だけ日本語の授業を行うことになりました。賛否両論ありましたが，なんとか頑張ることができました。シンガポールには日本人は3万人以上の日本人がいるのですが，日本人学校の人数はだんだん減っています。その中で特色作りとして取り組んだところがあります。

日本人会の出版物にも執筆しました。ホーカーという小さなお店を紹介する記事を書かせていただきました。こんな活動をする中で，いろいろな人とつながることができました。家族に支えてもらって，いろいろ勉強させてもらったことをこれから子どもたちに伝えていきたいと思えます。

保津 沙也加先生（高雄日本人学校：教諭）



私は高雄日本人学校に3年間勤務させていただきました。高雄日本人学校は台湾の南部に位置しています。港町で、海鮮が有名で、気候も人もあったかい街です。台湾には、台北・台中・高雄と3校の日本人学校があります。その中で規模は1番小さく、派遣1年目は児童生徒数が120名を超えていましたが、現在は100人ほどです。その高雄日本人学校ですが、私が知る限りでは…世界で唯一の学校であると思います。それは台湾の現地小学校の1棟をお借りしている学校だからです。

次に、高雄日本人学校での取組について、少し紹介します。学校規模が小さく、小学部から中学部まで少人数だったので、学校全体がアットホームな雰囲気でした。学校行事はもちろんのこと、児童と生徒が積極的にかかわる場面はとても多かったです。一緒に昼食を食べたり、その後、中学生が企画した活動と一緒にいたりすることもありました。運動会も小中合同です。応援合戦やリレーも係活動も、学年を超えて行います。中学部の生徒や小学部の高学年の児童はリーダーとして活躍します。もちろん、小学部・中学部が特色ある種目にも挑戦します。現地校に校舎を借りているという面で、運動場の使用や、練習時間が自由にとることができないなど、多少制限はありましたが、小中合同で高雄日本人学校らしい運動会を創りあげることができました。

1棟をお借りしている、中正國小の児童とのかかわりは、朝のあいさつタッチです。中学部生徒会、小学部の運営委員会が校門に立ち、中国語であいさつをします。また台湾の学校が長期休みになると、いつも中正國小の児童がしている校内外のそうじもさせていただきました。中正國小とは、週に1回会議をしながら、お互いの学校が協力して学校生活を送れるようにしています。

私がこの3年間で振り返り、印象に残っていることの1つは、やはり「人とのかかわり」です。『日本と同等、またそれ以上の教育活動を行う。さらに、日本では経験することができないかもしれない、台湾高雄でしかできない活動を積極的に行っていくこと』このような思いで教職員一同、取り組んでいました。

中学部では、野外活動と修学旅行を隔年で行っています。日本が大好きで、日本人学校の活動にいつも協力してくださる、現地の中学校の校長先生のおかげで、私たちは野外活動を行うことができました。日本の文化を伝えようと太鼓演奏を披露したり、台湾の文化について交流校の中学生に教えてもらったりと、学校同士、生徒同士がいい関係で交流続けることができています。

続いて、日本人学校ができたころから30年来交流を続けている学校との交流会についてです。生徒が日本語を紹介したり、家庭科で調理実習をすることがない台湾の中学生と一緒に昼食を作ったり、日本の武道の1つ、剣道も紹介しました。さらに、台湾の学校の児童生徒は、昼食後お昼寝をする習慣があります。午後の活動のために！休息を！そんな日本にはない習慣も知れる機会になりました。

修学旅行は、ベトナム・カンボジアへ行きました。やはりここでも交流会をしました。

1つ目は、カンボジアで日本語を勉強している学生との交流会です。彼らが日本語を勉強をしている主な理由は、観光客である日本人に日本語でガイドをするためです。日本語を学

んでいる生徒の年齢も様々でした。家族の家計を支えるために日本語の勉強をがんばる、いつか日本に行ってみたいと、目をキラキラさせながら話してくれるカンボジアの生徒の話聞いて、私たちもがんばらなければならないと、元気をもらうことができました。

ホーチミン市師範大学で日本語を勉強している大学生とも交流させていただきました。みなさんに共通していることは「日本が大好き！」ホーチミン市での自主研修にも、大学生に同行していただき、有意義な研修となりました。これらさまざまな交流会のために欠かせないことは、自分からコミュニケーションをとろうとする姿勢、伝えようとする気持ちだと思います。高雄日本人学校でも英会話の授業、中国語の授業を行っていますが、人とかがかわるときに使えるツールの1つになればいいなと思い、授業づくりをしていました。

まだまだ、いろいろな「かかわり」がありました。現地の小学校「中正國小」の中の日本人学校なので、日本語の授業を週に1回させていただきました。日本に興味をもってもらおう！日本語を知ってもらって、少しでも覚えてもらおう！と日本人学校が引っ越ししてから、ずっと続けている取組です。

また中正國小の先生方、保護者方々と文化交流も行いました。交互に日本と台湾の食文化を体験していくというものでした。日本メニューは「お好み焼き」「手巻き寿司」「おそば」「たこやき」台湾からは「水餃子」「日本とは違うちまき」「茶わん蒸し」などでした。いつもお互い興味津々！食文化を楽しむことは万国共通だと思いました。

台湾の3校の日本人学校は、年に1回集まっています。お互いの都市を訪れ、その都市を知ってもらおうと1DAY ツアーを企画したり、情報交換などを行っています。台湾国内、比較的行き来しやすい3校の先生方との出会いも貴重なものでした。

台湾らしいことをご紹介します。旧暦の端午節のころにある、ドラゴンボートレースです。台湾では旧正月、中秋節、に並ぶ三大節の1つです。台湾では端午節にちまきを食べて、ドラゴンボートレースが各地で行われます。このレースにも、中正國小の先生方と合同チームを作り、参加させていただきました。

この3年間、台湾では台風や地震もありました。地震のニュースは日本でも報道され、心配の連絡をいただきました。台湾では台風の影響で仕事や学校の休みが決まります。晴れの国育ちの私にとって、台湾の台風の威力すごかったです。休校、仕事が休みにもなりました。雨漏りや、校舎内外の片づけ、学力保証のための特別時間割を組むこともありました。街の復旧の速度は、とても速く、すぐに街は元通りになっていました。

最後に、なんと！高雄に岡山という場所がありました。岡山は、高雄市の中心部から少し北に行ったところにあります。羊の肉、豆板醤、はちみつが有名です。台湾の方と話すとき、「日本のどこに住んでいるの？」と聞いてくれます。このお決まりトークを何度したかわかりませんが、東京や大阪出身ではなくても、「岡山」という共通点で、すこし高雄の方々と近づけた気がします。

派遣を通してですが、「今の年齢で行っても、向こうで重宝されませんよ。」と岡山県の面接のときに言われました。行ってみると、文科省からの派遣の中では最年少で、確かに未熟な部分はたくさんあり、うまくいかないこともありました。岡山で自分の少ない経験の中でやってきたことが、スタンダードではなく、全国からやってきた先生方からたくさん学ばせていただきました。やり方は違っても、目の前にいる子どもたちのためにという気持ちは一緒で、そういう同僚の方々と一緒に働けたことは、私の成長につながったと思います。来させていだいたからには、限られた時間で自分ができることをしよう。生徒とともに学ばせてもらおうという気持ちでいました。何歳になっても、出会いは自分の成長につながるな

あとと思いました。

帰国して、日本での勤務が始まり、自分が経験してきたこと、見てきたことは何らかの形で生かして、伝えていきたいと考えています。3年間小学部の外国語活動の授業にも携わらせていただき、小学部を卒業した児童を中学部で新入生として迎える。小中の接続を考えながら、日々の授業や普段の生活でのつなぎ役となれたことは、現在勤務している学校での小中連携にも生かすことができていると思います。

最後になりましたが、よく「よく行こうと思って、よく行ったなあ」と言われます。挑戦したことは間違いではなかったと思います。「どこの国になるかが心配…」という話も聞いたことがあります。行かせていただいた国が私が行くべき国であったと、何事も自分の人生に意味があるんだと思っています。全く不安がなかったわけではありませんが、台湾の方々や同僚の先生方、そして岡山同期の先生方に支えられ、無事に3年間過ごすことができました。1歩踏み出して挑戦してよかったなと思います。これからは私も生徒たちに負けないように、いろいろなことに挑戦していこうと思いますし、生徒が1歩踏み出すとき、そっと背中を押してあげられる存在でいたいと思います。

台湾の方々、日本のこと、日本人のことが大好きです。時間を見つけては、日本に旅行に行きたい！と、おいしい日本食が食べたい！と言っています。岡山から直行便、3時間弱。ぜひ、行ってみてください。



柳川篤先生（プラハ日本人学校）

貴重な機会をいただき本当にありがとうございました。手元にある写真をもとに報告をします。後半は、最後の懇談の時に上映した映像を見ていただけたらと思います。

12名の派遣教員でした。子どもの数は100名程度。安全面に力を入れていて、昨年度には文科省の支援のもと、パニックルームの設置も行いました。学校の取り組みですが、グラウンドがバスケットコートくらいの広さしかなく、何かを行う時は近隣の学校を借りました。スポーツテストの時も借りました。平和記

念式典にも参加することができました。そこには、色々国の記念碑が立っており、その中にも広島のものもありました。地元の行事にも積極的に参加をし、祭りのようなイベントにも招待され日本の踊りを披露しました。また、教師間交流も行い、現地校との教師の交流を行い、それぞれの学校で授業を行いました。冬にはクリスマスマーケットにも行くことができました。1、2年生は自分たちでトラムに乗って出かけることができました。雪の積もる冬には、雪遊びやスキー体験も行いました。パニックルームで交流をすることもありました。

振り返ってみると、地域の環境を教材化するという身ををもって体験しました。地域の財を教材化していくことをしっかりと考えました。また、何かを変えるというときに、前の人たちの考えてきた結果であるということを考えました。小中一貫ということで、柔軟に交流することができるというよさがありました。また、中学校の先生と一緒に働けたということも貴重でした。ただ、小学部6年生のリーダーシップをいかに身につけるかという難しさがありました。



平田善久様講評

今日は非常に楽しい、そして勉強になる発表を聞かせていただきました。歴史や伝統について、また、地理、文化などにも触れながらの発表もありました。環境や治安について考えさせられる発表もありました。それぞれの大きな課題をもちながら一生懸命子どもたちを育てていただいたことに感謝します。コミュニケーションのベースは思いやり、敬意、理解が必要です。そこから次のコミュニケーションが生まれます。みなさんが、子どもたちにそのような観点でしっかりと指導していただけたらと思います。相互理解が当たり前になるような子どもを育てていただけると嬉しいです。



閉会（和氣啓二先生）

色々な文化を経験されたと思います。日本人学校がなぜあるのか。そこには子どもたちがいるから。そこでしかできない教育など、それぞれの子どもたちのために一生懸命指導されたと思います。貴重な経験をされた先生方、本当に「百聞は一見に如かず」だと思います。また外国から日本を見直す機会になったと思います。15分という限られた時間の中だったので、まだまだ語り足りない部分もあると思います。今後は、各職域、学校、担任、地域等で色々な機会でお伝えいただければと思います。